Press Release

資生堂、第 35 回国際化粧品技術者会連盟（IFSCC）カンヌ大会 2025 で 29 回目の「最優秀賞」を受賞

～研究成果を通じ、新たなビューティーソリューション開発を目指す～

2025年9月15日（月）～9月18日（木）にフランス・カンヌで開催された、化粧品技術を競う世界最大の研究発表会「第35回国際化粧品技術者会連盟カンヌ大会2025」（The 35th IFSCC※1 Congress 2025 France Cannes）において、全798件の研究報告（口頭発表68件、ポスター発表730件）のうち、資生堂 高井英輔研究員がポスター発表部門で「最優秀賞」を受賞しました。

資生堂は、IFSCC主催の研究発表会において、本大会で29回目の最優秀賞受賞となり、世界の化粧品メーカーの中で最多の受賞回数となります。今後もグローバルレベルで高く評価される研究開発力を強みとして革新的な価値を創り続け、当社の企業ミッションである「BEAUTY INNOVATIONS FOR A BETTER WORLD（美の力でよりよい世界を）」の実現に向け、世界中の人々へ美のイノベーションを届けていきます。

※1 IFSCC: The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists

第 35 回国際化粧品技術者会連盟（IFSCC）カンヌ大会 2025 授賞式

受賞テーマの概要

【ポスター発表部門　最優秀賞】

株式会社資生堂　みらい開発研究所
研究員（博士）　高井英輔

研究タイトル	顔形状のダイナミクス：重力応答型 3D 顔画像解析による非遺伝的要因の解明と顔形状を改善する成分開発
研究概要	顔の形状は、遺伝だけでなく加齢や生活習慣、環境要因の影響も受けて変化します。スキンケアにおいては、安全性の観点から非遺伝的な因子へのアプローチが求められますが、生体内でそれらを定量的に評価する手法は確立されていませんでした。本研究では、重力応答型 3D 画像解析により、加齢による「たるみ」と生活習慣に起因する「むくみ」の 2 つの因子を特定しました。さらに、むくみを引き起こす表皮炎症のメカニズムと、その重要因子である炎症性サイトカイン VEGFA（血管内皮増殖因子 A）を抑制する成分として 1-(ヒドロキシエチル)エチレン尿素を見出しました。本研究により、顔印象に科学的に働きかけるスキンケアの新たな可能性を明らかにしました。

IFSCC（国際化粧品技術者会連盟）について

IFSCC (The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists)は、1959年、8カ国の化粧品技術者会の参加により結成された、世界中の化粧品技術者による、より高機能で安全な化粧品技術の開発へ向けて取り組む組織です。現在は 78の国と地域を代表する 48の団体の約 16,000 名以上の会員から構成され、毎年開催される研究発表会には、数百報の研究発表と 1,000 名を超える参加者がある年もあり、名実ともに化粧品や肌などに関する世界で最も権威のある研究発表の場の一つとなっています。

▼資生堂企業ウェブサイト「IFSCC大会受賞研究の紹介」

https://corp.shiseido.com/jp/rd/ifscc/